

事業名：1. 男女共同参画推進事業

委員氏名		総合評価点		71点		81点		70点		70点		81点		60点		76点		66点		77点		平均														
評価		2015.11.13に答申し、その申入れで情報公開資料の設置を図書館に設置することを必須としたが、改良されていない。		積極的に取り組んでいると思われる評価できる。		当該事業は、本市の男女共同参画の基本となる重要な事業である。そのため、他の事業よりも厳格な基準で評価されるべきものである。事前周知などは、多くの市民に徹底すべきである。「参加と協働」を目標に掲げるのであれば、男女共同参画社会が目指している公平・平等な「女性の社会参加」も同旨といえよう。所管課の皆様には、その点をぜひ配慮していただきたい。		公募の数はほぼ半数と高いが、市民公募の方法が広報「しろい」とHPのみの為、各センターや図書館等の市民が資料する場所への掲示も必要である。また、審議会の出席率が低い。パブリックコメントの周知方法は全て網羅されているが、結果の公表についてはHPのみであるため、周知の方法と対応するような公表の方法が望まれる。アンケートに関しては、第2回目の回収率が34.6%と第1回目よりも低い、企業を通じた配布の際の声掛けの工夫が課題である。		おおむね取り組んでいる。しかしながらパブリックコメントの事情がなんとなく乏しい。「男女共同参画」について市民が考えることのできる機会を設ける必要がある。取り組みは意欲を感じさせるものである。		①男女共同参画というテーマは政府をはじめ大企業でも重要課題として取り組み始めているが白井市ではまだ一般に十分認識されていないのかパブコメが0とは残念である。②会議では市役所が依頼した当座職員が1名欠席である、理由は何か？		1.3種(審議会・意見公募・アンケート)の参加手法が採用されており評価できるが、本事業の必要性や意義などが十分に市民の理解を得ていない現状のもとで、その意義や目的の周知、啓蒙のためにも、意見交換会なども企画されると良かった。2. 公募委員数は6名と十分だが、28年度委員については応募が4人と2名の欠員になってしまったのは残念で、その理由を分析し、今後に生かす必要があると思われる。3. 意見公募の提出がゼロというのも残念。このことから、手法実施の有無もさることながら、結果(意見数やその反映、会議の傍聴者数等)も評価項目にする必要があるのではないだろうか		男女が平等に参画できる社会の実現を目指し、その推進計画を策定する重要な事業である。多くの市民の参加より、より充実した新計画の策定が望まれる。																				
	評価項目	配点	実施状況	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント															
	実施した市民参加の取組	15	H26.4~H28.3 男女共同参画推進会議(平成26年度で任期切れのため、平成26年度中に募集を実施) H26.8~9 アンケート調査の実施 H28.3.1~3.14 パブリックコメントの実施(14日間)	10		15		15		15		15		10		15		15		15		15		13.9												
	選択した市民参加の手法	5		5		5		5		3		5		3		5		5		5		5		4.6												
	意見の取り扱い・公開方法	5		3		3		3		2		2		3		4		3		3		3		2.9												
市民参加の取り組み・積極性	5		3		5		3		3		5		4		2		4		4		4		3.7													
審議会の設置	基準	①任期:平成24年11月~平成26年11月 H24.6.1~6.15 公募委員募集(15日間) 広報しろい(H24.6.1)、市HP、担当課窓口で周知 1.委員13名のうち6名市民公募委員(男2/女4) 2.応募者7名(男2/女5)から6名選定、基準は公開郵便、FAX、メール、担当課窓口で受付	基準		基準		基準	事前周知の方法としては、情報公開コーナー、図書館を使うなどもう少し幅広く行ってもらいたい。選考については、女性5人のうち、1人が落とされている。所管課としては、男性を2人、委員に入れたかったのか、それとも選考基準に女性に適しなかったのかという点を検討したい。	基準		基準		基準		基準	公募委員の定数が1期目は6人、2期目が4人となっている基準によると6人が適当であるが減員の理由は何か。関心の高い事業であると思われるが、委員の応募は少なくパブコメが0とは残念であると思われる。3. 会議録の公表が、ホームページと図書館ではなされておらず、昨年の当推進会議の提言が受け止められていないのは遺憾	基準	1. ②の公募委員数6名に応募は4名(前期は7名)しかなかったのは残念。原因分析の必要があると思われる。2. 7回の会議で傍聴者なしが5回で、全会議の合計でも3人は少ない。市民の関心の度合いの低さが影響していると思うが、会議の事前周知が広報ではなされておらず(他の事業も同様)意識的に調べることも知ることが難しいことも要因としてあるのではないか。今後は、広報での周知を義務付ける必要あり。	基準	1. 委員、傍聴者が限定される。 2. 会議録は図書館でも公開する。	基準		基準		基準		基準		基準		基準		基準		基準	
	水準	②任期:平成27年3月~平成29年3月 H26.11.1~11.14 公募委員募集(14日間) 広報しろい(H26.11.1)、市HP、担当課窓口で周知 1.委員13名中4名市民公募委員(男2/女2) 2.応募者4名(男2/女2)を審査、4名選定、基準は公開郵便、FAX、メール、担当課窓口で受付 3.会議は7回開催(平日日中)、全て公開で実施 4.会議は市HP、情報公開コーナー、担当課窓口で事前周知 5.会議録は逐語録を情報公開コーナー、担当課窓口で公開	水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準													
	合計			合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計												
	20			15		19		13		15		20		15		16		13		15		15		15.7												
	合計			15		16		14		15		18		10		17		11		17		17		14.8												
パブリックコメント(意見公募)募集	基準	1.H28.3.1~3.14 パブリックコメント募集(14日間) 郵便、FAX、メール、各センター・回収箱、担当課窓口で受付 2.素案、目的・案内、意見書を提供 3.担当課窓口、市HP、各センター、情報公開コーナー、図書館で資料提供 4.広報しろい(H28.3.1)、市HP、情報公開コーナー、図書館、各センター、担当課窓口で周知 5.0人から0件の意見 H28.4.1 パブリックコメントの募集結果について公表 市HPで公表	基準	相変わらず応募・回答ゼロで工夫が必要。	基準	パブリックコメントの結果なしも市民の意識低下につながるような公表箇所はほかにももつべきだと思う。	基準	今回の事業で、パブリックコメントがないということは問題である。なかったから、結果公表について、判断できないわけであるが、なぜパブコメがなかったかという理由を吟味しなければならぬ。	基準		基準		基準		基準	形の上では条件が整っているが市民に何故反応がないのかを分析してほしい。	基準	1. 公募意見数がゼロというのは残念であると同時に、その原因について分析し、今後に生かすことが必要。応募ゼロでは、何のための公募なのか意味をなさないのでないか。本来は、応募が多数あり、それらの意見が事業への反映がはかされてこそ公募の目的が達成することを改めて銘記すべきと思う。2. コメントの募集期間を2週間としているケースがほとんどだが、市民が募集開始を知るのは直後とは限らないこと、そして市段階でのパブリックコメントは当該事業に関して専門的知識を持たない一般市民がその対象である場合が多いことを考慮するとせめて3週間は確保すべきではないだろうか。	基準	1. 募集期間は長くする。 2. 資料提供と結果公表は同じ場所で行う。	基準		基準		基準		基準		基準		基準		基準			
	10		9		9		8		8		10		5		9		8		9		9		8.3													
	水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準													
	10			6		7		6		7		8		5		8		3		8		8		6.4												
	合計			合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計												
20			15		16		14		15		18		10		17		11		17		17		14.8													
アンケート調査実施	基準	① H26.8.29~9.16 一般市民にアンケート調査を実施 ② H26.9.5~9.29 在勤者にアンケート調査を実施 1.広報しろい(H26.8.15)、市HPで周知 2.下記①については郵送(18日間)、②については対象企業を通じ配布(25日間) 3.市内全域を対象に下記のとおり実施 ①住民基本台帳から18歳以上の市民2,000人を無作為に抽出 ②市内の在勤者500人 4.①計2,000件、898件回収(回収率44.9%) ②計500件、173件回収(回収率34.6%) 5.H27.4.8 アンケート結果を公表 広報しろい(H27.6.15)、市HP、各センター、図書館、担当課窓口で公表、市内小中学校に配布	基準	② H26.9.5~9.29 在勤者にアンケート調査を実施	基準	アンケート結果は市内小中学校にも配布され子供・先生方の目にもふれることが出来て望ましい。ただ市民目線で言えば情報コーナーにはないのは残念。	基準	事前周知については、もう少し多くの方法があったのではないだろうか？情報公開コーナーおよび図書館には、情報を提供できる状態を整えてほしかった。	基準		基準		基準		基準	回収率について①は良いが②は企業に依頼した割には低いのではないか	基準	1. アンケートが在勤の一般市民だけでなく、在勤の方も対象としたのは評価できるが、やや回収率が低いように思われるので、その意義の周知(特に企業の窓口担当に対し)が十分であったか反省も必要ではないだろうか。	基準	在勤者アンケートの回収率が低い	基準		基準		基準		基準		基準							
	10		10		9		9		10		10		10		10		10		9		9		9.7													
	水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準													
	10			10		9		8		7		6		5		7		5		9		9		7.3												
	合計			合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計												
20			20		18		17		17		16		15		17		15		18		18		17.0													

事業名：2. 白井市まち・ひと・しごと総合戦略策定事業

委員氏名		総合評価点		72点		77点		68点		68点		73点		59点		72点		66点		73点		平均		
評価項目	配点	実施状況	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント				
評価				会議の回数が少ないと感じる。パブコメが相変わらず応募・回答ゼロで工夫が必要。		短い期間の中で市の強みを探し出す努力のあとが見られる。もう少し時間をかけられたら市民の中にももっとかかわれることがあったと残念な部分もある。(例えばタウンミーティングで意見をかわすなど)		当該事業の趣旨からいえば、総合戦略を策定するために、できるだけ多くの市民の方々の意見を反映させるべきである。その観点から、アンケート調査は重要な聴取の方法といえるが、事前周知を徹底させてなかったことが残念である。今後は、事業の趣旨をかんがみ、参加の取り組みをより促進するような理念を持って、事業に携わっていただきたい。		公募枠は2名しかいないが3名が望ましい。パブリックコメントが0件であるので、パブリックコメントで、何を求めているのかを市民に伝える表現方法を工夫することが望まれる。結果の公表については、0件であっても、公表場所を複数にすることが望ましい。		「まち・ひと・しごと総合戦略策定事業」という名前であるが、いまだ市民に浸透しているとは思えない。行政の努力は感じることができず、まだ課題が多いように感じられる。さらにアンケートについてもまだ改善できる余地があるのでは。さらに公募委員の人数を増加させる方途も考えるべきではないか。		① 評価基準には市民感覚を大切にする審議会では市民参加が全体の50%が望ましいとある。2名(20%)は少ない。 ② 事前周知やの結果公表手段に「広報しろい」がないのは市民に対し不親切である。地元の情報(新聞、広報誌)が一番良く見るもので、HPや情報公開コーナー、担当課窓口などは特に当該事業に関心が高い人しか見に行かないものです。 ③ 高校生以上は市外に出る人が多いが、最近では60歳以上の働き盛りも多くなったので当該事業のテーマ「ひと・しごと」を積極的に呼び込むと活力ある「まち」になる		1. 審議会3回の委員出席率は全て100%であること、また、広報での会議開催の事前周知がないにも関わらず(マイナス要素)毎回傍聴者が参加し、しかも合計で19名(特に初回は13名)と多く、公募者数と同様関心の高さが推測されるなど積極的に評価できる。 2. 委員の公募者数や傍聴者数から判断すると、パブリックコメントへの意見がゼロというのは残念で驚き。そうした結果になったことの検討と今後の改善が必要ではないか。 具体的には、募集期間の延長、広報での意見公募周知掲載方法の工夫(公開会議、意見公募、意見交換会などの事前周知をまとめて一覧表化して掲載など)もされると良いのではないかと。 3. アンケートを調査対象別に3回の実施は評価できるが、貴重なアンケートによる意見集約がされたにもかかわらず、その結果を受けた審議会が開かれていないのは極めて残念で、アンケート結果は総合戦略には反映させないということなのだろうか。		少年・高齢化が進む中、今後も活力ある社会を維持するための法律に基づき、国及び県と一体的に取り組む創生総合戦略の策定は重要である。まち・ひと・しごとについて、市の実情と課題を十分に把握し、様々な市民の意見を的確に反映させる必要がある。		69.8				
	実施した市民参加の回数	15	H27.7~H28.3 白井市まち・ひと・しごと創生審議会 H27.10.1~10.14 パブリックコメントの実施 H27.7 無作為抽出の市民を対象としたアンケート調査を実施	15		15		15		15		15		10		15		15		15		14.4		
	選択した市民参加の手法	5	H27.7 農家台帳登録者を対象としたアンケート調査を実施 H27.7~8 白井市商工会加入事業者を対象としたアンケート調査を実施	5		5		5		3		5		3		5		5		5		4.6		
	意見の取り扱い・公開方法	5		3		3		5		2		3		3		0		3		3		2.8		
	市民参加の取り組み・積極性	5		4		5		2		2		3		3		2		4		4		3.2		
審議会の設置	基準	H27.4.15~4.30 公募委員募集(16日間) 広報しろい(H27.4.15)、市HP、情報公開コーナー、各センター、図書館、担当課窓口で周知	基準	会議が少ないように感じる。	基準	公募委員2名に対し、市民の反応は良い。又委員の出席率も100%	基準	当該事業の趣旨として、会議の開催が「平日日中」というのは難しいのではないだろうか? 現役世代で、企業などで勤務する方々の声を聞くには無理があるような気がする。事前周知も、HPと情報公開コーナー以外的手段を活用してほしかった。	基準		基準		基準		基準		基準	審議会の一般公募委員の人数が少ない、	基準	1. 市民の間でも問題意識が浸透しつつある中で、応募者も市内各地域から8名と多い中で、また全体委員数も多いとは言えない10名という中で、公募枠2名に固執する必要があったのだろうか。弾力的な対応をしても良かったのではないかと。 2. 会議3回の委員出席率は全て100%で、広報での会議周知がないにも関わらず(マイナス要素)傍聴者は毎回参加し、それも3回の合計で19名(特に初回は13名)と多く、公募者数と同様関心の高さが推測されるなど積極的に評価できる。 3. 会議録の公開に図書館が除外されているのは提言との関係からも残念。	基準	1. 公募委員の割合が低い。 2. 委員、傍聴者が限定される。 3. 会議録は図書館でも公開する。	基準	
	10	1.委員10名のうち2名市民公募委員(男1/女1) 2.応募者8名(男7/女1)から2名選定、基準は公開郵便、FAX、メール、各センター回収箱、担当課窓口で受付	9		9		9		10		10		10		10		10		8		9	9.2		
	水準	3.会議は3回開催(平日日中)、全て公開で実施 4.会議は市HP、情報公開コーナーで事前周知 5.会議録は逐語訳を情報公開コーナー、市HP、担当課窓口で公開	水準		水準	傍聴者も多く関心の高さをみてとれる。	水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10		8		9		3		8		6		9		6		9		5		6		6.6	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	
20		17		18		12		17		15		16		19		13		15		15		15.8		
パブリックコメント(意見公募)募集	基準	H27.10.1~10.14 パブリックコメント募集(14日間) 郵便、FAX、メール、担当課窓口で受付	基準	パブコメが相変わらず応募・回答ゼロで工夫が必要。	基準	パブリックコメントで意見するハードルの高さを感じる	基準	パブコメがまったくないため、最後の項目は評価ができない。本市においては、現役世代が少なくないため、パブコメがなぜ出てこなかったのかを考える必要がある。厳しいようであるが、参加のまち・白井にふさわしい方法を考慮すべきである。	基準		基準		基準		基準		基準	パブコメが何故0なのか分析し広報しろいに公表して市民に、もっと参加を呼び掛けるのもひとつの方法であろう。	基準	1. 委員の公募者数や傍聴者数から判断すると、意見がゼロというのは残念で驚き。そうした結果になったことの検討と今後の改善が必要ではないか。 具体的には、募集期間の延長、広報での意見公募周知掲載方法の工夫(公開会議、意見公募、意見交換会などの事前周知をまとめて一覧表化して掲載など)もされると良いのではないかと。	基準	1. 募集期間は長くなる。 2. 資料提供と結果公表は同じ場所で行う	基準	
	10	2.素案、目的・案内、意見書を提供 3.担当課窓口、市HP、各センター、情報公開コーナー、図書館で資料提供	8		9		8		10		7		9		9		9		8		9	8.4		
	水準	4.広報しろい(H27.10.1)、市HP、情報公開コーナー、各センター、図書館、担当課窓口で周知 5.0人から0件の意見	水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	H27.10.28 市HPで結果について公表	6		7		6		7		5		8		8		8		2		8		6.1	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	
20		14		16		14		14		17		17		17		10		17		17		14.6		
アンケート調査実施	基準	(アンケート1) H27.7.11~7.24 アンケート調査を実施	基準	情報設置の図書館抜け。	基準	3パターンの対象者に幅広く調査し、督促ハガキまで送り回収率を上げる努力をしている。	基準	事前周知がまったくないということについては、適切な理由が必要である。調査対象となる市民にとって、不利益な扱いを受けるものとは考えにくい。	基準		基準		基準		基準		基準		基準	1. アンケートを調査対象別に3回の実施は評価できる。 2. アンケート3は、実質的に事業所の責任者を対象としたものと思われるが、回収率が1と2に比べて10ポイントほど低いのがやや気になる。また、商工会加入業者が対象とのことだが、商工会のホームページ掲載の会員事業者数は全部で500弱のようだが、抽出して600人という数字との整合性にやや疑問を持った。 3. 貴重なアンケートが行われたにもかかわらず、その結果を受けた審議会が開かれていないのは残念で、アンケート結果は総合戦略には反映させないのか。	基準	1. 事前周知は複数の手段が必要 2. 結果公表は図書館でも行う 3. 調査対象(割合)が不明 (1)市内全域 (2)農家台帳登録者(3)商工会加入者	基準	
	10	1.事前周知は無し 2.個別郵送で調査(14日間) 3.市内全域を対象に2,000人を無作為抽出し、実施。 4.計2,000件、944件回収(回収率47.2%) 5.H27.12.28 アンケート結果を情報公開コーナー及び市HP、担当課窓口で公表	7		7		8		10		7		7		7		7		9		7	7.8		
	水準	(アンケート2) H27.7.11~7.24 アンケート調査を実施	水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	1.事前周知は無し 2.個別郵送で調査(14日間) 3.市内全域の農家台帳登録者を対象に500人を無作為抽出し、実施 4.計500件、237件回収(回収率47.4%) 5.H27.12.28 アンケート結果を情報公開コーナー及び市HP、担当課窓口で公表	7		8		7		5		5		7		7		7		7		7		6.7	
	合計	(アンケート3) H27.7.28~8.12 アンケート調査を実施	合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	
20	1.事前周知は無し 2.個別郵送で調査(16日間) 3.市内全域の白井市商工会に加入している事業者を対象に600人を無作為抽出し、実施 4.計600件、232件回収(回収率38.7%) 5.H27.12.28 アンケート結果を情報公開コーナー及び市HP、担当課窓口で公表	14		15		15		15		15		12		14		16		14		14		14.4		

事業名：3. 白井市第5次総合計画策定事業

委員氏名		総合評価点										平均				
		113点	124点	112点	113点	119点	85点	127点	97点	113点	111.4					
評価	総合評価が100点を超える。パブリックコメントが相違わず応募・回答ゼロで工夫が必要。		市の中心となる重要な計画なので市民の関心を高める工夫と様々な立場から意見する機会を持たせる努力を回数をかけていく高く評価する。	本市の最上位計画の策定として、厳しい評価をしたつもりである。しかし、他の自治体よりも、所管課の「参加」に対する意識が高いこと・白井の基本となる姿勢が作られていることから、所管課の皆様の努力を表現したい。将来の「まち」白井がどのような姿を目指すかの基本となる事業であるため、参加の視点も多しに入れ、策定をお願いしたい。	パブリックコメントの募集期間を1ヶ月にし、市の総合計画にふさわしい市民参加の手法や内容で取り組んでいる。特にパブリックコメントの数が、ワークショップの回数や場所も工夫されている。将来的な視点も多しに入れ、策定をお願いしたい。	まずまず健闘している。実施状況・パブリックコメント、アンケート調査など精力的に取り組まれており、一定の効果があらわに思える。しかしながら回収率はまだ低いところがあるように感じている。市民の声をさらに聞ける機会を設ける必要があるであろう。	市民参加が求められる基準、及び望ましい水準をほぼ満たしている。市民参加の回数、出席率も良く、傍聴者もいる。パブリックコメントは10人×47件は他の事業の追従を許さない、広報しついでの大掛かりな掲載は効果がある。パブリックコメントは2回に亘り12人50件、アンケート調査は一般人へは郵送2,500通、回収率44.5%はとも良い。小中高生へは597通100%回収。ワークショップも全市各地で実施参加者も合計14回、309名は良い資料が集まったものと思う、この積極性は今後の活用に向けて期待が持てる。	1. 事業開始が平成26年度開始直後なのに、昨年評価対象にせず新規事業扱いになったのはなぜか。 2. 市の最重要計画の策定事業であることから、それにふさわしく公募委員も5名と委員の3分の1を占め、会議も高い出席率のもとで8回開催され、パブリックコメントも2回、アンケート調査も対象別に2回、タウンミーティングも地区別に8回開催され、加えて意見交換を含む説明会も開かれるなど、充実した市民参加が行われたことは評価できる。 3. パブリックコメントには、12人から50件の意見が寄せられたものの、参考とされるにとどまり、一件も反映されないということは、それだけ素案の完成度が高いということなのか市の施策と相違するところなのかはわからないが、公募した意見が全く取り入れられないのだとすると、この制度導入自体の目的や意義に疑問を持たざるを得なくなるし、今後の公募意欲を減退させるおそれも危惧されることから、できるだけなるべく取り入れる努力をすべきではないだろうか。	今後10年間の市の行政運営を総合的・計画的に推進するための指針となる総合計画は最も重要なものである。今後の社会・経済状況等も踏まえ、多くの市民の意見を反映しつづ、計画の内容が十分に理解されるよう策定する必要がある。							
	実施した市民参加の回数	15	H26.8~H28.3 総合計画審議会 H26.12.15~H27.1.13 パブリックコメント実施(30日間)	15	H26.5.16~7.18 アンケート調査の実施	15	H26.6.21~H26.7.19 ワークショップを開催(6地区)	10	H26.12.13 住民説明会を開催	15	H27.9.1~9.14 パブリックコメント実施(14日間)	15	H27.5.16~6.6 ワークショップの開催	15	14.4	
	選定した市民参加の手法	5	H26.5.16~7.18 アンケート調査の実施	5	H26.6.21~H26.7.19 ワークショップを開催(6地区)	5	H26.12.13 住民説明会を開催	4	H27.9.1~9.14 パブリックコメント実施(14日間)	5	H27.5.16~6.6 ワークショップの開催	3			4.7	
	意見の取り扱いは公開方法	5	H26.12.13 住民説明会を開催	3	H27.9.1~9.14 パブリックコメント実施(14日間)	5	H27.5.16~6.6 ワークショップの開催	3		5		4			4.1	
	市民参加の取り扱いは公開方法	5	H27.5.16~6.6 ワークショップの開催	5		5		5		5		5			4.3	
審議会の設置	基準	H26.5.15~5.30 公募委員募集(16日間) 広報しついで(H26.5.15)、市HP、情報公開コーナー、各センター、図書館、担当課窓口で周知	基準	市民の関心が高く応募者も多いが女性が少ないのが残念	基準	他市では、一般的な取り組みである。しかし本市では、参加のまちを掲げ、公募委員も「地域に偏りがないか」という視点で例年審査しており、公募委員は地域代表としての視点も求められている。ほかにも、審査基準には、本市ならではの厳格さがあるため、上記の点を配慮し、所管課にもいっそうの「参加」の視点をお願いしたい。	基準	減点は4、5で広報しついでと図書館(他の記事は沢山掲載されている)	基準	1. 公募委員数と占有率、会議の回数と委員の多い出席率、パブリックコメントやワークショップなどの意見反映が議題にされるなどは評価できる。ただし、本事業も会議の事前周知が広報ではなせず、市民の関心はある程度高かったのに、傍聴者ゼロの会議も3回あるなど、今後の教訓とすべきと思われる。 なお、公開の会議での傍聴者の扱いに関して、最後に短時間でも感想や意見を述べる機会が保障されるとともに、事業によっては「意見のメモ」を提出でき、次回に事務局等から一定の回答が文書でなされるなどの努力が行われると、傍聴者の意見反映も図れるだけでなく、市民の傍聴を含む市民参加意欲の向上に資するのではないか。(全事業共通、庁舎では意見や疑問提出が保障されている)	基準	1. 公募委員の割合が低い 2. 委員、傍聴者が限定される 3. 議事録は図書館でも公開する	基準	1. 公募委員の割合が低い 2. 委員、傍聴者が限定される 3. 議事録は図書館でも公開する		
	10	1. 委員15名中5名市民公募委員(男4/女1) 2. 応募者19名(男18/女1)から5名選定、基準は公表 郵送、FAX、メール、各センター回収箱、担当課窓口で受付	9		8		10	8	8	9		6.2				
	水準	3. 会議は6回開催(平日日中) 全て公開で開催 4. 会議は市HP、情報公開コーナーで事前周知 5. 議事録は逐語訳を情報公開コーナー、市HP、担当課窓口で公開	水準		水準		水準	水準	水準	水準		水準				
	合計	6		10	3	7	5	9	合計	13	合計	15	合計	14.8		
	20		合計	15	合計	11	合計	15	合計	17	合計	15	合計	14.8		
パブリックコメント(意見公募)募集	基準	(平成26年度) 1.H26.12.15~H27.1.13 パブリックコメント募集(30日間) 郵便、FAX、メール、各センター回収箱、担当課窓口で受付 2. 素案、目的・案内、意見書を提供 3. 担当課窓口、市HP、各センター、情報公開コーナー、図書館で資料提供 4. 広報しついで(H26.12.15)、市HP、情報公開コーナー、図書館、各センター、担当課窓口で周知	基準	27年度募集期間14日間はみじかいのでは?	基準	2回に渡り意見を市民が反応するのはワークショップでのわかりやすいと思う。又広報での意見公表は評価する。	基準	所管課の皆様のご尽力がうかがえる。今回の取り組みに感謝するとともに、今後このようにお願いしたい。	基準	26年度の募集期間30日は良いのではないかと 時間を掛け丁寧にやれば応募者も応えてくれる、数字で分かる	基準	1. 充実したパブリックコメントが実施され、特に1回は30日間の期間が保障されたこともあってか、10人から47件の意見が寄せられたことは評価できる。 2. しかし、50件もの意見が寄せられたものの、全て参考とされる等の扱いにとどまり、一件も反映されないということは、それだけ素案の完成度が高いということなのかはわからないが、公募した意見が全く反映されないのだとすると、この制度に疑問を持ち、その後の公募意欲を減退させるおそれも危惧されることから、なるべく取り入れる努力をすべきではないだろうか。	基準	パブリックコメント(H27、前期計画)の募集期間が短い	基準	
	10	5.10人から47件の意見 H27.2.13 提出された意見に対する市の考え方を公表 広報しついで(H27.3.1)、市HP、情報公開コーナー、図書館、各センター、担当課窓口で公表	10		10		10	9	10	10	10	10	9.9			
	水準		水準		水準		水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準			
	合計	10		9	10	9	8	5	10	合計	15	合計	19	合計	8.3	
	20		合計	20	合計	19	合計	18	合計	20	合計	15	合計	18.2		
アンケート調査実施	基準	1.H26.5.16~5.30 一般市民にアンケート調査を実施 2.H26.6.16~7.18 児童生徒にアンケート調査を実施 ①広報しついで(H26.5.15)で周知 ②小・中学校校長会等を通じて周知 2)郵便で調査(15日間) 2)学校を通じてアンケート表を配布(30日間) 3)白井市在住の16歳以上の者から無作為に抽出した2,500人 ④市内小学5年生、中学3年生及び白井高校2年生延597人 ⑤計2,500件、1,113件回収(回収率44.5%) ⑥計597件、597件回収(回収率100%) ⑦H26.8.15 アンケート結果を公表 ⑧H26.12.15 アンケート結果を公表 広報しついで(H26.8.15)H26.12.15)、市HP、各センター、情報公開コーナー、図書館、担当課窓口で公表	基準	アンケート結果は協力してくれた学校あてにも返すべきだと思う。	基準	事前周知の方法は、広報以外にも、HPなどを活用して良かった。若年層は広報ではなく、HP、SNSなどで情報を収集する傾向がある。市の最上位計画だけに、多くの参加を募りたいところである。	基準	1. アンケート結果が、計画にきちんと反映されたかどうか、疑問の残る部分(北総線問題や放射能問題等)があり、行政側の意向で市民の意向が正確に反映されないという問題があったのではないかと。	基準	1. アンケート結果が、計画にきちんと反映されたかどうか、疑問の残る部分(北総線問題や放射能問題等)があり、行政側の意向で市民の意向が正確に反映されないという問題があったのではないかと。						
	10		9	9	10	9	10	9	10	10	9	9.4				
	水準		水準		水準		水準	水準	水準	水準	水準	水準				
	合計	10		9	8	6	5	10	7	合計	17	合計	8.1			
	20		合計	20	合計	18	合計	16	合計	20	合計	17	合計	17.6		
ワークショップの実施	基準	(平成26年度) 1.H26.6~7 ①勉強会②タウンミーティングを開催(全8回) ①土休日に保健福祉センターで2回開催 ②土休日に市内の6センターで6回開催 2.出席者へ資料を配布 3.参加者の資格要件はなし(市民の自由参加) 4.広報しついで(H26.6.1)、市HP、情報公開コーナー、図書館、各センター、メール配信、担当課窓口で事前周知 5.開催記録は要点録を公表 広報しついで(H26.9.15)、市HP、情報公開コーナー、担当課窓口で公表、希望者には個別郵送により公表	基準	市政に関心を持ち考える為の情報を得ることが出来る場を作ったのは大変評価出来る。	基準	結果公表は図書館まで必要ないようにも思う。しかし、参加を掲げる本市だけに厳しく審査したい。担当課で結果公表は当然のような気がするが、ワークショップが開催されたということを知ってもらうことは重要である。	基準	全市各地で土日実施を計画したのは意欲が感じられる。26年8回×201名 27年6回×108名	基準	1. 地区別開催など評価できるが、参加者の評価はどうか、疑問の残る部分(北総線問題や放射能問題等)があり、行政側の意向で市民の意向が正確に反映されないという問題があったのではないかと。						
	10		9	9	10	8	10	10	10	9	9.2					
	水準		水準		水準		水準	水準	水準	水準	水準					
	合計	6		10	9	10	6	10	3	合計	13	合計	8.0			
	20		合計	15	合計	19	合計	20	合計	18	合計	13	合計	17.2		
その他の方法	基準	1.H26.12.13 住民説明会を開催 土曜日は市役所で開催、60名参加 2.市内在住、在勤・在学の方 3.広報しついで(H26.12.1)、市HP、情報公開コーナー、図書館、各センター、担当課窓口で周知 4.会議録は要点録で作成、意見に対する市の回答あり H26.12.25 市HP、情報公開コーナー、担当課窓口で公表 5.出席者へ資料を配布し、基本構想(素案)の説明や質疑応答、意見交換等を行った。	基準	図書設置なし	基準	市民にかかわる回数が前に何度もあったからこそとりまかたもめられた素案に対して関心が高くなるのだと思う。他にもこのような手法を用いてほしい。	基準	60名の参加者は担当者の準備と、市民の関心の高さでもあるPRが行き届いていたであろう。	基準	特になし	基準	開催回数が少ない。また、場所を工夫する。	基準	7.0		
	10		6	7	8	6	6	6	6	6	6	6				
	水準		水準		水準		水準	水準	水準	水準	水準	水準				
	合計	9		12	11	9	12	5	4	合計	10	合計	9.1			
	20		合計	15	合計	19	合計	17	合計	20	合計	14	合計	16.1		

事業名：4. 白井市障害者計画等策定事業

Table with columns for evaluation items (委員氏名, 総合評価点, 評価項目, 配点), scores (94点, 85点, 91点, 69点, 107点, 73点, 91点, 80点, 89点), and average scores (平均). Includes detailed comments and scores for various project activities like public consultations and surveys.

事業名：5. 第2次しろい健康プラン策定事業

委員氏名		82点		74点		76点		71点		101点		67点		86点		66点		90点		平均		
総合評価点		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	79.2		
評価		事業の性格で市民の意見を反映させる必要がある事業からすると、アンケート結果・講演会のけっかほうほうに積極性が見られない。		市民に関わりが深い施策のほが市民の取り込みが弱く感じられる。気運を高める方策が必要である。		事業そのものは終了しているが、今後活かすために、参加のまち・白井を意識して、評価させていただいた。結論としては、説明責任を果たすことが必要であるということである。参加の観点からは、なぜ公募委員が1名なのか、なぜ時間帯がその時間なのかといったことまで、常に市民の方々に説明できるようにしておいてほしい。今後、ますます厳くなる視点であろう。		審議会の公募が1名であるので、もう少し増やす必要がある。全ての項目において事前の周知の方法は多岐にわたっており、アンケート回収率も94.3%のため、市民参加の手法としては有効である。課題としては、結果の公表の取り扱いは窓が少ないことである。アウトプットの方法の改善が望まれる。		おおむね取り組んでいるように感じるが、課題についても浮かび上がる。①公募委員の女性委員の数の0はいかがでしょうか②公募委員1名は少ないのでは③公募委員の募集期間が24日間と短い。④パブリックコメント数の0。⑤大学教授から講演をいただいたとのことであるが、内容が明記されていないのでわからない、などである。まだ改善の余地は多いと思われるので、今後に期待したい。		当事業の内容的には専門的知識を必要とする、とは思いますが市民の健康プラン策定には受ける側の市民の意見も大きく盛り込む必要がある。然しながら審議会12名委員の内、市民公募数1名とは評価基準に照らしても余りにも少なすぎ、担当の健康課は市民参加条例を理解しているか否かを問いたい。		1. 参加手法として、審議会の設置、パブリックコメント、アンケート、その他(講演会、講習会)とかなり充実した参加がされているように外見上は見えるが、実質はどうかの。 ※ 審議会の公募委員は1名だけ、会議は年に1～2回でしかも短時間(最短は20分)、会議録には発言者の記録もなく、その理由は自由な発言を保障するためとしている。発言書の記録が必須とは考えないが、会議を公開しながら記録はできないという意味が不明。講習会の開催記録も作成はしながら「非公開」としているが、公開すると何か問題が生じるのだろうか。 2. パブリックコメントも、応募がゼロというだけでなく、応募期間の設定が師走の下旬から正月の4日までという常識では考えられないもの。 事業担当課及び推進協議会の会長等の姿勢に疑問を持つ。		市民の関心が高い。全ての世代の新しい健康プランの策定にあたっては、様々な意見を集約した上で、今後、健康な地域社会を実現し、維持する取組が重要である。						
	実施した市民参加の数	15	H26.10～H28.1 パブリックコメントの実施	15		15		15		15		10		15		15		15		14.4		
	選択した市民参加の手法	5	H26.10～11 アンケート調査の実施(23日間)	4		5		3		5		3		4		5		5		4.3		
	意見の取り扱い・公開方法	5	H27.6.27 第2次しろい健康プラン策定に関する講演会(第1回)を開催	3		3		2		5		3		2		3		2		2.9		
	市民参加の取り組み・積極性	5	H28.3.26 第2次しろい健康プラン策定に関する講演会(第2回)を開催	3		3		4		5		3		3		5		2		3.7		
審議会の設置	基準	H25.6.1～6.17 公募委員募集(17日間) 広報しろい(H25.6.1)、市HPで周知	基準	公募委員の1名は少ない。結果公表のHPのみは少ない。	基準	市民が応募しやすい方策をとっていない、又会議自体の時間・回数も少なく報告のみで終わってしまっているのではないかと。 (会議録もせめて情報公開コーナーにも公表してほしい(改善された))	基準	公募委員がなぜ1名なのかを明確に説明する記述が、市のHPなどを含め、探すことができなかった(事業が終了したためであれば、陳謝する)。事業は終了したが、今後のことでもあるので、ぜひ論理的な説明ができるようにしてほしい。また、公開などの方法も少ないため、次回は参加の趣旨にのっとり、事業を肅々と進めてほしい。	基準		基準		基準		基準	公募数が極端に少ない、バランスが悪い。会議には市からの会議には市からの会議にも重責と負担を感じるのではないかと。この影響もあろうと思うが、応募者数も2回の募集とも2名と少なかつたのではないかと。 2. 会議の事前周知は広報でも欲しいし、公開は情報公開コーナーや図書館にも欲しい。傍聴もゼロ。 3. 会議の回数は年間1～2回と少ないだけでなく、会議時間も全体として短すぎないか。これで実質的な審議が十分にできるのだろうか(最長で90分、60分が2回。最短は20分)。 4. 会議録での、発言者の記載にチェックないか、公表分だけでなく原本でさえも記載せず、その理由が「委員に自由に発言いただくため」とあるが、記載すると本当に自由な発言が出来るのだろうか、大いに疑問。むしろ、責任ある発言や充実した討議が担保されない弊害の方が大きい気がする。	基準	1. 何も公募委員数だけが、市民参加の充実度を示すパラメータとまでは思わないが、1名というのはやはり少なすぎで、公募者自身としても重責と負担を感じるのではないかと。この影響もあろうと思うが、応募者数も2回の募集とも2名と少なかつたのではないかと。 2. 会議の事前周知は広報でも欲しいし、公開は情報公開コーナーや図書館にも欲しい。傍聴もゼロ。 3. 会議の回数は年間1～2回と少ないだけでなく、会議時間も全体として短すぎないか。これで実質的な審議が十分にできるのだろうか(最長で90分、60分が2回。最短は20分)。 4. 会議録での、発言者の記載にチェックないか、公表分だけでなく原本でさえも記載せず、その理由が「委員に自由に発言いただくため」とあるが、記載すると本当に自由な発言が出来るのだろうか、大いに疑問。むしろ、責任ある発言や充実した討議が担保されない弊害の方が大きい気がする。	基準	1. 公募委員が少ない 2. 委員、傍聴者が限定される 3. 会議録は、図書館でも公表する	基準	
	水準	H27.8.1～8.24 公募委員募集(24日間) 広報しろい(H27.8.1)、市HPで周知	水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	1.委員12名のうち1名市民公募委員(男1/女0) 2.応募者2名(男2/女0)から1名選定、基準は公開郵便、担当課窓口で受付	7		0		3		7		7		7		7		7		6		4.6	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	
	20		14		8		8		9		17		12		14		8		15		11.7	
パブリックコメント(意見公募)募集	基準	1.H27.12.15～1.4 パブリックコメント募集(21日間) 郵便、FAX、メール、各センター回収箱、担当課窓口で受付	基準	パブコメが相変わず応募・回答ゼロで工夫が必要。結果がゼロだとやらなかったことと同じなことに関し採点を加えることに違和感を感じる。	基準	方法は良いがそもそも内容が市民にとって身近なはずが遠いので意見出さずも当然かと思う。	基準	提供場所は、もう少し広げてもよかったのではないだろうか。そのこととパブコメ件数が0であることとの因果関係は不明だが、少しは影響しているように思われる。	基準		基準		基準		基準	パブコメとは何が原因か分析の必要があり	基準	1. パブリックコメントが21日間と長めで評価しようと思ったが応募ゼロで、良く見ると師走の下旬から正月の4日までと常識では考えられない期間となっている。 事業の担当課や協議会の会長の資質や責任問題すら生じるのではないかと。	基準	資料提供と結果公表は同じ場所で行う	基準	
	水準	2.素案、目的・案内、意見書を提供	水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	3.担当課窓口、市HP、情報公開コーナー、各センター、図書館で資料提供	6		8		7		6		8		7		9		3		9		7.0	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	
	20		15		17		14		14		18		12		18		12		18		15.3	
アンケート調査実施	基準	H26.10.30～11.21 アンケート調査を実施	基準	結果公表取扱いが少ない。	基準	事前周知を行わないでのアンケートで回収率が高いのは市民の関心の高い	基準	無作為抽出を行い、アンケートをされていることは評価できる。しかし、事前周知が行われていないと、突然のアンケートに戸惑った市民もいるのではないだろうか。近年、市民をめぐる環境は危険になっている。たとえば、「おれおれ詐欺」などである。市が責任をもって行う事業であるからには、行政の正当性へも含め、あらかじめ市民の方々にその意義などを明確にし、協力を求める必要がある。	基準		基準		基準		基準	評価基準では結果公表は3箇所とあるが2箇所であった	基準	1. 事前の周知は複数で行う 2. 結果の公表はホームページでも行う	基準		基準	
	10	1.事前周知は行ってない	8		7		7		10		5		7		7		7		7		7.3	
	水準	2.下記①については郵送。(23日間) ②については学校で配布、回収(23日間)	水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	3.市内全域を対象に下記のとおり実施 ①住民基本台帳から無作為抽出した20歳以上の男女2,200人 ②市内の小学5年と中学1年の男女1,271人 4.それぞれ下記のとおり実施	7		6		6		6		6		7		7		5		7		6.3	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	
20		15		13		13		13		16		12		14		13		14		13.7		
その他の方法	基準	1.H27.6.27 第2次しろい健康プラン策定に関する講演会の開催	基準	2回目の非公開の理由の説明に納得できない。	基準	果たしてこれが市民参加と言えるのかはなほ疑問、事業内容ではないのか。プランを制定する前に気運を上げる為にするのであれば参考にもつながら意見も出てくるが特に2回目は策定後であるのなら前回の人に声を掛けていくべきである。その為には市民に身近な公民館を活用した方がよいのでは又健康診断時も大いに活用すべき	基準	講演会の趣旨は理解できる。それであれば、その結果をもう少し詳しく、参加の促進がみえるようにしてほしい。企画自体は評価できるものなので、参加および納税者視線に立って、公開の意義を熟慮してほしい。	基準		基準		基準		基準	講演会なので結果公表は採点できないので0とした	基準	講習会(H28.3)の会議録は公表する	基準		基準	
	10	2.市内に在住、在勤、在学する者、市内に住所を有する法人	5		6		7		6		8		5		6		7		6		6.2	
	水準	3.広報しろい(H27.6.1)、市HP、図書館、担当課窓口、メール配信、課事業や市民大学校におけるチラシの配布により周知	水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	4.会議録は要点訳を計画書・概要版に掲載 5.講師が策定中の計画の概要や健康づくりのアドバイスに関する講演を行い、計画の主要な施策について参加した市民がグループ発表を行い、出した意見を計画に反映させる。	5		5		7		6		12		7		10		3		8		7.0	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	
20		10		11		14		12		20		12		16		9		15		13.2		

事業名：6. 都市マスタープラン策定事業

委員氏名		総合評価点		100点		95点		87点		83点		102点		67点		104点		79点		92点		平均	
評価																						89.9	
評価項目	配点	実施状況		評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント		
実施した市民参加の取	15	H26.5～H26.7 アンケート調査を実施 H26.6.21、6.22 意見交換会を開催 H27.3.15 ワークショップを開催		15		15		15		15		10		15		15		15		15		14.4	
選択した市民参加の手法	5	H27.9.1～9.14 パブリックコメントの実施 H27.5.16～7.4 ワークショップの開催		5		5		5		4		3		5		5		5		5		4.7	
意見の取り扱い・公開方法	5			5		4		2		2		3		5		5		4		3		3.7	
市民参加の取り組み・積極性	5			5		5		2		3		5		5		5		5		5		4.2	
パブリックコメント(意見公募)募集	基準	1.H27.9.1～9.14 パブリックコメント募集(14日間) 郵便、FAX、メール、各センター回収箱、担当課窓口で受付		基準		基準	事前周知は必要だと思ふ。	基準	基本的には妥当であるといえるが、本市の求める参加の基準からいえば、いっそうのご検討が必要である。都市計画マスタープランの策定からいえば、パブコメ数も多くない。所管課の説明責任が問われるところである。	基準		基準		基準	事前周知がない	基準	1. パブリックコメントでは2名から4件と必ずしも多いものではなかったが、そのうち2件の意見が素案に反映され、修正されたことは、同制度が実効をあげたという点で評価したい。	基準	1. パブコメの募集期間は長く 2. 事前周知は、複数の手段で行う 3. 結果公表は、図書館でも行う。また、資料提供と結果公表を同じ場所で行う。	基準		基準	
	10	2.素案、意見書を提供 3.担当課窓口、市HP、情報公開コーナー、各センター、図書館で資料提供		10		6		8		7		10		6		8		7		6		7.6	
	水準	4.事前周知は無し 5.3人から4件の意見		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	H27.10.16 情報公開コーナー、市HP、広報しろい(H27.11.1)に市の意見を公表		10		5		6		5		5		5		8		3		6		5.9	
	合計			合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	13.4
20			20		11		14		12		15		11		16		10		12		13.4		
アンケート調査実施	基準	①H26.5.16～5.30 一般市民にアンケート調査を実施 ②H26.6.16～7.18 児童生徒にアンケート調査を実施		基準		基準	総計画と同様	基準	校長会に周知するのは当然であるが、そのようなアンケートが行われていることを市民に知らせることが求められるよう。全市民で参加を推進しているのに、彼らに情報が無いというのは理解に苦しむ。「情報なければ参加なし」という言葉のように、当該事業は具体的に誰に、何をを行っているかを明確にする必要がある。	基準		基準		基準	広報しろいでは市民が現状に満足している様子が分かる。	基準	同アンケートは、総計画と兼用のもので、単独で実施したものではないので、ここではコメントしない。	基準	事前周知は、複数の手段で行う。	基準		基準	
	10	1.①広報しろい(H26.5.15)で周知 ②小・中学校校長会等を通じて周知		10		9		8		9		10		7		10		10		9		9.1	
	水準	2.①郵便で調査(15日間) ②学校を通じてアンケート表を配布(33日間)		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	3.①白井市在住の18歳以上の者から無作為に抽出した2,500人 ②市内小学5年生、中学3年生及び白井高校2年生延597人 4.①計2,500件、1,113件回収(回収率44.5%) ②計597件、597件回収(回収率100%)		10		10		7		7		7		5		10		7		9		8.0	
	合計			合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	17.1
20	5.①H26.8.15 アンケート結果を公表 ②H26.12.15 アンケート結果を公表 広報しろい(①H26.8.15②H26.12.15)、市HP、各センター、情報公開コーナー、図書館、担当課窓口で公表		20		19		15		16		17		12		20		17		18		17.1		
意見交換会の開催	基準	1.H26.6.21・22 都市マスタープラン策定説明会(意見交換会) 土休日に保健福祉センターで開催		基準		基準	結果公表に図書館なし。	基準	総計画ではワークショップの中に含まれて記載されていた。	基準		基準		基準	意見交換会に2日で53人が参加してくれた事は企画者の段取り努力が見える。	基準	1. 説明会の開催記録のうち、提出された意見に対する市の考え方の公表に、「意見交換会の性格から回答はしていない」との記載があるが、必須とまでは思わないが、公表を妨げる趣旨の逐条解説ではないと思うので、過重な負担にはならない範囲で検討いただけたら良いと思う。	基準	1. 開催回数を増やし、場所を考慮する 2. 会議録の公表は、図書館でも行う。	基準		基準	
	10	2.参加者へは資料を配布 3.市内在住・在勤・在学者		10		8		9		9		10		6		10		9		8		8.7	
	水準	4.広報しろい(H26.6.1)、市HP、情報公開コーナー、図書館各センター、担当課窓口で周知		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	5.会議録は要点録で作成 広報しろい(H26.9.15)、市HP、情報公開コーナー、担当課窓口で公表 参加者のうち希望者には郵送で公表		10		7		8		7		10		5		10		2		8		7.3	
	合計			合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	16.0
20			15		18		17		16		20		11		20		11		16		16.0		
ワークショップの実施	基準	(平成26年度) 1.H27.3.15 都市マスタープラン策定説明会(ワークショップ) 土休日に保健福祉センターで開催		基準		基準	事前周知に自治会経由の回覧を用いたこと評価できる	基準	上掲同旨。都市マスの説明会をワークショップといえるかどうかは判断に苦しむが、それであれば、どのような点で、ワークショップといえるかを明記してほしい。具体的には、そこで、ワークしたことがどの程度、都市マスに反映されるかの問題である。	基準		基準		基準	開催日を土日とし、市内各センターを利用するなど工夫を凝らしているのは担当者のやる気が伝わってくる。	基準	総計画と兼用なのでここではコメントしない。	基準	開催記録は、情報公開コーナー及び図書館でも行う。	基準		基準	
	10	2.出席者へ資料を配布 3.参加者の資格要件はなし 4.広報しろい(H27.3.1)、市HP、各センター、図書館、自治会への回覧を通じて事前周知		10		9		9		9		10		9		9		9		9		9.1	
	水準	5.開催記録は要点録を市HPで公表		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	(平成27年度) <1回目> 1.H27.5.16～6.6 第5次総合計画及び都市マスタープラン策定地区別ワークショップ 土休日に各センターで6回開催		10		6		9		8		10		5		9		3		9		7.2	
	合計			合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	16.3
20	2.出席者へ資料を配布 3.参加者の資格要件はなし 4.広報しろい(H27.7.1)、市HP、各センター、図書館、担当課窓口、過去参加者への個別案内を通じて事前周知 5.開催記録は逐語訳を市HP、担当課窓口で公表		15		18		17		15		20		14		18		12		18		16.3		

事業名：7. 白井市第2次環境基本計画の中間見直し事業

委員氏名		総合評価点		○	73点	◎	75点	○	72点	○	71点	○	74点	○	56点	◎	76点	○	62点	◎	75点	平均	
評価																							
実施した市民参加の取組	15	H27.7.31～11.13 白井市環境審議会 H28.2.3～2.16 パブリックコメントの実施(14日間) H27.5.8～6.30 アンケートの実施	15		15			15		15			15		10		15		15		15	14.4	
選択した市民参加の手法	5		5		4			5		4			3		3		5		5		5	4.3	
意見の取り扱い・公開方法	5		5		3			3		2			2		3		3		3		3	3.1	
市民参加の取組・積極性	5		3		4			2		4			3		3		3		4		4	3.3	
審議会の設置	基準	H25.2.15～H25.2.28 公募委員を募集(14日間) 広報しるい(H25.2.15)、市HP、各センター、担当課窓口で周知	基準	結果公表図書館なし。	基準	会議録は情報コーナー、図書館も公開すべき会議の出席率はあまり良くない	基準	募集・周知方法は、HPなどだけではなく、図書館等のような多くの市民が目にする事が求められる。当該事業は「環境基本計画」についてなので、多くの市民の関心が集まるものと考えられる。	基準		基準		基準		基準		基準	事前の周知、結果の公表、会議録は3箇所公表となっているが少ない -4	基準	1. 公募委員が5名と多く評価できるが、第3回会議の出席率が半分なのは問題で、日程の設定しなおしを含めて検討すべきではなかったか。	基準	1. 委員、傍聴者が限定される 2. 会議録は、情報公開コーナー及び図書館でも公表する	基準
	10	1.委員14名中5名市民公募委員(男3/女2) 2.応募者7名(男5/女2)から5名選定、基準は公表郵便、担当課窓口で受付 3.会議は3回開催(平日日中)、全て公開 4.市HP、情報公開コーナーで事前周知 5.会議録は逐語録を市HPで公開、発言者は記載せず	9	9	8	8	8	10	7	8	7	8	7	8	8	8	8	8	8	9	8	8.4	
	水準		水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	
	10		6	8	6	5	6	7	6	5	6	6	6	8	8	4	5	4	5	5	6.1		
	合計		合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
20		15	17	14	13	17	13	16	12	13	16	12	13	16	12	14	14.6						
パブリックコメント(意見公募)募集	基準	1.H28.2.3～2.16 パブリックコメント募集(14日間) 郵便、FAX、メール、各センター回収箱、担当課窓口で受付	基準	結果公表図書館なし。	基準	資料提供が素案のみは不親切	基準	上掲同旨。結果の公表などについては、HPだけでなく、他の方法も使うことが求められる。なぜなら、デジタル・デバイドの観点からである。パソコンをもってそれを使いこなすことができる方ばかりではないので、紙媒体での意見の公表が望まれる。	基準		基準		基準		基準		基準	結果公表場所2箇所少ない -2	基準	1. 3人から3件とそう多くはない応募意見だったが、そのうち1件が素案を修正するものとして採用されたのは良かった	基準	資料提供と結果公表を同じ場所で行う	基準
	10	2.素案を提供 3.担当課窓口、市HP、情報公開コーナー、各センター、図書館で資料提供	8	8	9	9	9	10	5	9	9	9	9	9	9	8	9	8	9	9	8.3		
	水準		水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	
	10	4.広報しるい(H28.2.1)、市HP、情報公開コーナー、各センター、図書館、担当課窓口で事前周知 5.3人から3件の意見	7	7	8	7	8	7	7	7	7	7	7	7	7	4	9	4	9	9	7.2		
	合計	H28.4.1 情報公開コーナー、市HPに市の意見を公表	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
20		15	15	17	16	17	12	18	12	18	12	18	12	18	12	18	15.6						
アンケート調査実施	基準	H27.5.8～6.30 アンケート調査を実施	基準	結果公表図書館なし。	基準	アンケートは市民に対しては広報・自治会回覧で周知しているものの、自主性にゆだねられている為お金の掛からないが母体数が少ないように思う。	基準	上掲同旨。幅広い層からの意見を求めるのであれば、周知の方法の工夫が必要である。また、結果公表は、「環境」だけに多くの方々の目に入るような努力をしてほしい。	基準		基準		基準		基準		基準	1. アンケートの回収率が不明である、判断不能 -2 2. 結果公表の場所2箇所 -2	基準	1. 市内全戸他、全中学校、その他に大量の配布を行った模様だが、中学生を除くと184件の回収と言うのはどう評価したら良いのだろうか。	基準	結果は、図書館でも公表する	基準
	10	1.広報しるい(H27.6.1)、市HP、各センター、図書館、担当課窓口で周知 2.市HPによるWEB調査、担当課窓口、図書館および各センター・回収箱で調査(54日間) 3.市内全域を対象に下記のとおり実施	9	8	8	8	9	10	5	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8.1		
	水準		水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	水準	
	10	①市内全戸にアンケートの協力依頼を回覧で周知 ②商工会、工業団地協議会、市民大学校、市内全中学校へアンケートへの協力を依頼	6	9	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	2	8	2	8	8	7.0		
	合計	4.778件回収(うち、市民から184件、中学生から534件回収)	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
20	5.H27.7.31 アンケート結果を情報公開コーナー、市HPで公表	15	17	16	17	17	12	16	10	16	10	16	10	16	10	16	15.1						

事業名：8. 白井市汚水適正処理構想策定事業

委員氏名		総合評価点		48点		45点		42点		45点		50点		43点		52点		37点		51点		平均	
評価		満点でも70点。会議2回は少なく、結果公表も図書館なし。熱意が感じられない。		専門性のある内容に市民の使う立場からの意見を反映できる場があることは大変有り難いが、審議会の回数といい、パブリックコメントの募集といい、形式にのっとり行われているに過ぎないように感じられる。		事業は終了してしまったが、参加を促進するため、そして説明責任を果たすためにも、市民参加条例の趣旨にのっとり適正手続きで事業を実施していただきたい。当該事業の難しさは理解できる。しかし、それを説明することが肝要である。説明責任を果たし、市民に理解されることも、参加の前提としては必須である。		事前周知がHPのみであるのは、市民参加の視点としては不足である。また、パブコメの資料が条例の素案だけでは、市民は理解しにくい。ため、解説するものをつける等、工夫が必要である。		まずまず取り組んでいるように感じるが、すこし積極性に欠けるように見受けられる(公募期間は10日間、公募委員の募集人数男女合わせて3名、パブリックコメント募集期間14日間など)。市民の生活にダイレクトに関わる事項だけに今後の改善を期待する。		汚水処理問題は生活に密着した重要な事業であるが、一般市民には直ぐには関心が低いかもしれない、それはほとんど問題なく日常が送られているからであろう。上下水道課に感謝したい、東京では老朽化した配管に穴が開くなど大事に至っている。地震災害等で何が起こるか分からない時代であるから日頃からの注意を怠らなようにしたい。広報しろいの審議会委員募集の隣に浄化槽の日、パブコメ募集の隣に上下水道条例の改正の関連記事を掲載するのは良い事である。2回の審議会に推薦委員11命中5名が欠席、理由は？		1. 必ずしも一般市民の関心が高いテーマとは思えないこともあるが、公募期間が10日というのは短すぎないだろうか。そのことも影響してか、3人の公募枠に応募も3人だったがもう少し延ばしても良いと思われる。		平成21年の市汚水適正処理構想の見直しに当たっては、関係者等の意見も反映しつつ適切な役割が選定され実施される必要がある。また、今後とも芸水道整備と合併処理浄化槽の補助制度による汚水適正処理の推進が重要である。						45.9	
	評価項目	配点	実施状況		評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント	
	実施した市民参加の数	15	H27.10.30~12.8 白井市上下水道審議会		10		10		10		10		10		10		10		10		10		10.0
	選択した市民参加の手法	5	H27.11.5~11.18 パブリックコメントの実施		5		3		3		2		3		4		3		3		3		3.2
	意見の取り扱い・公開方法	5			5		2		3		2		3		3		4		3		3		3.1
市民参加の取り組み・積極性	5			3		3		2		3		2		3		4		2		3		2.8	
審議会の設置	基準	H25.10.1~H25.10.11 公募委員を募集(10日間)		基準	委員14名とあるが、10名では？	基準	(受益者の選考はどのようにしているのか?)	基準	審議会の公募委員比率が少ない理由は理解できる。しかし、その事情を説明するものが見当たらない(事業終了のため、掲載されていたのであれば、陳謝する)。参加のまち・白井ということとを考慮すると、HPをはじめ、他の方法で、その趣旨も説明する必要がある。	基準		基準		基準		基準	市の当て職11名中5名が欠席、理由は？	基準	1. 公募期間が10日というのは短すぎないだろうか。そのことも影響してか、3人の公募枠に応募も3人だったがもう少し延ばしても良いと思われる。	基準	1. 公募委員の割合が低い	基準	
	10	広報しろい(H25.10.1)、市HPで周知 1.委員14名中3名市民公募委員(男2/女1) 2.応募者3名(男2/女1)から3名選定、基準は公表		8	会議2回は少ない。結果公表に図書館なし。	7	会議の周知方法は黒板での方法ではないのか。	7		9		10		6		8	市はどのような基準で当て職を推薦するのか、又受ける人も義務を果たせるのか、他の部門でも同様な事がある。要検討課題として頂きたい。	8		9	2. 委員、傍聴者が限定される	8.0	
	水準	郵便、担当課窓口で受付		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	3.会議は2回開催(平日日中)、全て公開 4.市HP、会議会場及び市役所庁舎1F黒板で事前周知 5.会議録は逐語録を情報公開コーナーで公開、発言者の氏名は原本のみ記載		7		7		5		7		7		5		6		6		3	3. 会議録は、ホームページ及び図書館でも公表する	5	5.8
合計				合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	
20				15		14		12		16		17		11		14		11		14		13.8	
パブリックコメント(意見公募)募集	基準	1.H27.11.5~11.18 パブリックコメント募集(14日間)		基準	パブコメが相変わらず応募・回答ゼロで工夫が必要。	基準	提供資料は方法案内や意見書も付けた方が親切	基準	当該事業のパブコメがなかったことは理解できる。しかし、参加のまちを推進するために、通常の手続きはしておいてほしい。また、他の事業のインプレメンテーションで多忙だとは思いますが、今後のことでもあるので、参加の観点をはじめ、市民の目に触れるような場所では、情報提供すなわち公開の意識を常に持ってもらいたい。	基準		基準		基準		基準	形は整っているがパブコメ0は何故か要分析を望む	基準	1. 提案意見ゼロは寂しい。	基準	資料提供と結果公表は、同じ場所で行う	基準	
	10	郵便、FAX、メール、各センター回収箱、担当課窓口で受付		6		8		7		7		10		6		8		7		9		7.6	
	水準	2.素案を提供		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準		水準	
	10	3.担当課窓口、市HP、各センター、図書館で資料提供 4.広報しろい(H27.11.1)、市HPで周知 5.0人から0件の意見		4		5		5		4		6		7		8		1		9		5.4	
合計		H27.12.2 市HPで公表 提出された意見はなかったことについて公表		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	
20				10		13		12		11		16		13		16		8		18		13.0	